

松川浦のアサリ増産へむけて

相馬双葉漁業協同組合

松川浦支所青年部 菊地利明

1. 地域と漁業の概要

松川浦は福島県の北端に位置する県内唯一の内湾で、面積はおよそ 738ha に及ぶ。干潮時には広大な面積の干潟が出現し、夏になるとアサリの潮干狩りが行われ大勢の観光客が訪れる。また、「魚のゆりかご」として注目されているアマモも多数生育し、豊かな自然が残っている。

松川浦支所は松川本所と松川浦支所に分かれており、組合員数は正組合員 176 名、准組合員 460 名でアオノリ、アサリなどの浅海漁業が主体である。

2. 活動グループの組織と運営

青壮年部の部員数は 34 名である。アオノリ養殖に重要な段線修理や水深棒の手入れなどの他、ツメタガイの卵塊駆除などの作業にも積極的に参加している。

3. 活動課題選定の動機

松川浦におけるアサリの漁獲量は、昭和 50 年代には 500 トンを超えていたものの、近年は 100 トン前後の低水準で推移していることから、松川浦の漁業者はアサリの資源保護と増産のために様々な取り組みを行っている。

特に、近年、松川浦でもアサリの食害生物であるサキグロタマツメタが増えてきて、このままではアサリ資源に対して深刻な影響が出る事が懸念されたことから、松川浦の組合員全員でツメタガイの卵塊駆除に取り組むこととした。

その他に、組合では資源確保のために毎年アサリの種苗放流を行っているが、放流場所は限られており、放流場所と放流効果の検討は充分とは言えなかったことから、アサリの放流効果について検討し、漁場を有効利用するために、県の補助事業である漁業後継者グループ活動支援事業の中で平成 14 年度から 16 年度にかけてアサリの放流試験を行った。

4. 実践活動の状況及び効果

サキグロタマツメタの卵塊駆除作業は、干潮時に漁場ごとに組合員が手作業で卵塊を拾い集めることにより行った。平成 16 年度に初めて実施し、延べ 10 日間、366 人が参加し、約 1.5 トンの卵塊を駆除した。平成 17 年度は延べ 7 日間、376 人が参加し、約 1.2 トンの卵塊を駆除した。

放流試験は、漁場毎に従来の放流地点を対照区、従来放流をしていなかった場所を試験区として設定し、成長を比較することとした。放流するアサリは同じ産地の種苗を用い、放流するアサリの一部を抽出し殻長、重量を測定後、ラッカースプレーで標識して放流した。放流区域は一部を禁漁とし、一年後に放流種苗を採捕し、殻長、重量を測定した。

平成 14 年度は 3、4 号区で試験を行った。1 年後に放流種苗を回収して測定した結果、3 号区試験区は対照区と同程度の成長だった。4 号区では 3 号区よりも

成長が悪い結果となった。

平成 15 年度は 1、2 号区において放流試験を行った。1 号区は地島(試験区)、川口前(対照区)、2 号区は和田南、和田北を設定した。その結果、1 号区試験区では対照区よりもやや成長が悪かった。2 号区は 1 号区よりも成長が良い結果となった。

そのため、平成 16 年度は 2 号区において再度放流試験を行うとともに、アサリの生息密度が低いと言われている地島周辺についても詳細な検討を行うこととした。また、松川浦ではアマモが繁殖しているが、アマモ場が広がるとアサリの生息域が減ってしまうことから、我々漁業者はアサリ漁場に入り込んできたアマモを駆除するために、漁場に耕耘機を持ち込んで耕運しアマモを地下茎ごと掘り起こしていた。このとき、漁場の砂が攪拌されてアサリの成長が良くなっていると感じていたが、具体的なデータが全くなかったことから、耕運の効果についても検討することとした。

平成 17 年に回収した結果、2 号区ではツメタガイの食害の影響により回収できたアサリが少なかったことから、結果は明らかとならなかった。しかし、回収できた個体はいずれも成長しており、放流適地である可能性は残された。また、地島周辺の調査では試験区、対照区共に同程度の成長となり、地島周辺はアサリ放流地点として適していると考えられた。六郎兵衛で行った耕運の効果については試験区、対照区で成長差は認められず、耕運の効果は明らかとならなかった。

5.波及効果

組合員全員で卵塊駆除作業を行うことで、サキグロタマツメタがアサリの食害生物であることを認識することが出来た。そのため、一斉駆除作業以外でも卵塊や親貝を見つけると漁業者が自主的に駆除してくるようになった。

また、一連の放流試験の結果から、現在組合で行っている放流地点以外にも同程度の成長が見込める地点がある事が分かった。また、耕運の効果に対して初めて具体的なデータを得ることが出来た。更に、自分たちで放流試験を行ったことで、アサリの放流と成長について漁業者の関心が高まった。

6.今後の課題

サキグロタマツメタについては、引き続き卵塊駆除を行い、親貝の増加を防ぐとともに、親貝の効果的な駆除方法に関する情報を収集し、今後の駆除作業に生かしていきたい。

放流試験については、一連の試験の結果、1 号区や 2 号区で成長が良いという結果が得られた。従来の放流地点は経験を基にして選択されたが、その他にも利用できる場所があると分かったのは大きな収穫である。現在の漁場の中にはアサリの密度が高い場所もあるので、そのような場所への移植を減らし、違う場所へ放流することで漁場を効果的に利用できる。また、成長が悪かった場所は客土候補地とすれば、漁場を更に有効的に活用できると考えている。

我々漁業者が経験的に効果があると感じていた耕運については、今回の試験では効果ははっきりとしなかった。機会があれば、再び同様の試験を実施して耕運の効果を

検討したい。また、最近はアサリの移植量に対して漁獲量が増加している。アサリ漁をしていても、稚貝を目にすることが多いことから、松川浦の中での天然発生が増えてきたのかもしれない。漁場を有効利用するためには既存漁場の環境を改善して、アサリが棲みやすくすることも大事だと考えている。今後も松川浦の環境を維持し、漁場を有効利用するための活動に取り組みたい。

松川浦におけるサキグロタマツメタ卵塊駆除状況

	延べ日数	延べ人数	駆除数量(kg)
平成16年	10	366	1,460
平成17年	7	376	1,170

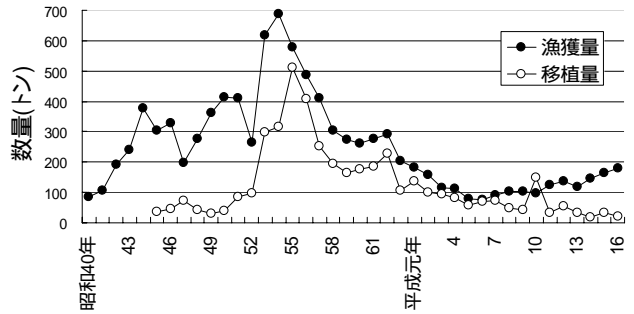


図 松川浦におけるアサリ漁獲量と移植量の推移



図 卵塊駆除作業



図 アサリ標識作業



図 平成14年度放流地点

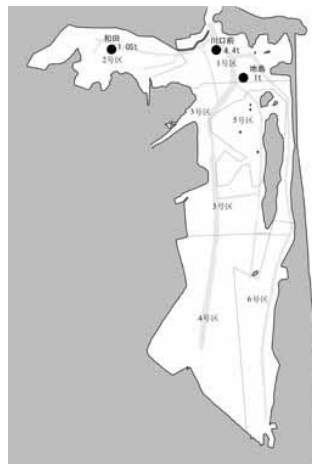


図 平成15年度放流地点



図 平成16年度放流地点